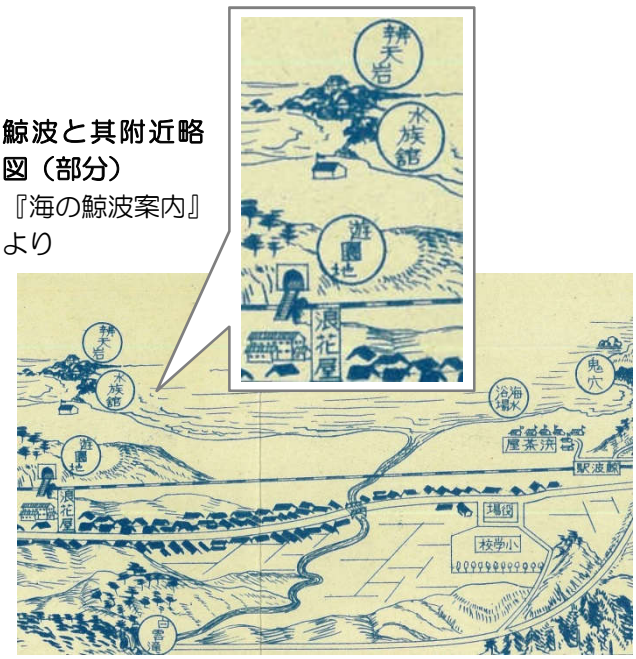
「柏崎の橋」　６６ 浪花屋の跨線橋（鯨波）

右の写真は、１９３０年代前半に発行されたと思われる絵はがきである。ここには、鯨波・浪花屋旅館（現在の浪花屋・夕凪亭）裏側の庭園と、そこにつながる跨線橋が写っている。

昭和６年９月１日に関東と長岡を結ぶ上越線が全通することを記念して、同年の８月から９月にかけて長岡で博覧会が開催された。この博覧会の見物客を海水浴に呼び込むこと（寺泊などに客を取られないこと）が、柏崎や鯨波の課題となっていた。このとき鯨波の浪花屋旅館では、鯨波全体の繁栄を目指して観光開発に着手、旅館の海側の裏山を開削して庭園（遊園地）を整備し、庭園の下の海岸には天然水族館を開設した。この庭園と旅館の間には信越線の線路が通っていたため、観光客が安全に海側へ渡れるよう、浪花屋旅館では跨線橋を建設することにした。橋は上越線全通記念博覧会には間に合わなかったが、翌年４月に植木組の工事により完成。５月１４日には、新津運輸事務所長、柏崎保線区長、鯨波駅長などの来賓が出席して、竣工式と祝賀会が盛大に行われた。



鯨波と其附近略図（部分）
『海の鯨波案内』より

浪花屋旅館の跨線橋
『（信越線鯨波）浪花屋庭園及トンネル』
当館所蔵小竹コレクション絵はがきより

跨線橋と海岸の間の丘には、水族館への通行がしやすくなるよう、トンネル（浪花隧道）も造られた。水族館には、遠方からの観光客や修学旅行生が多数訪れたとのことなので、橋やトンネルも多くの人々が通行したことであろう。また、橋やトンネル自体も「鯨波新名勝の一つとして この附近の美観を増すこととなるだろう。」と紹介されるなど、鯨波の名物となった。

当時の新聞に「独力水族館を建設　全然無報酬で公開していることは今や郡下絶賛的となりつつある」と評価されたように、この観光開発は浪花屋旅館が自力で行ったことだが、橋の建設に必要な鉄道当局への申請は、制度上、浪花屋旅館が行うことはできなかった。しかし、鯨波村長・村会議員が「鯨波の発展のために」浪花屋旅館に協力、鯨波村当局が代理申請を行うことで橋建設にこぎつけた。浪花屋旅館をはじめ、鯨波の発展を願う多くの人々の協力により、鯨波全体の魅力が増すこととなったが、こうした取り組みが、後の鯨波海水浴場の繁栄に繋がったと言えるだろう。

●参考にした本
『海の鯨波案内』（292 クシ）　鯨波保勝会 編
『柏崎編年史』（224 シン）　新沢佳大 編著